⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、8,675億円の受取超過であって、前年同期（１兆2,122億円の受取超過）に比べ、3,447億円受取超過額が減少した。収入は、前年同期（３兆2,892億円）に比べ、１兆5,618億円増加して４兆8,510億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆770億円）に比べ、１兆9,065億円増加して３兆9,835億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入5,075億円、支出8,376億円、差引き3,301億円の支払超過であって、前年同期（4,962億円の支払超過）に比べ、1,661億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入10兆7,898億円、支出11兆5,849億円、差引き7,950億円の支払超過であって、前年同期（2,888億円の支払超過）に比べ、5,063億円支払超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第４・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	331,488	166,528	164,960	327,229	210,276	116,953
国債(１年超)	323,597	162,597	160,999	323,393	209,420	113,974
借入金	7,891	3,931	3,960	3,836	856	2,980
国庫短期証券等	1,080,960	1,014,614	66,346	1,149,657	1,042,447	107,210
国庫短期証券	975,960	909,614	66,346	1,034,832	927,622	107,210
一時借入金	105,000	105,000	△ 0	114,825	114,825	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は16兆4,960億円の受取超過であって、前年同期（11兆6,953億円の受取超過）に比べ、４兆8,006億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行32兆3,597億円、償還16兆2,597億円、差引き16兆999億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入7,891億円、償還3,931億円、差引き3,960億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、６兆6,346億円の受取超過であって、前年同期（10兆7,210億円の受取超過）に比べ、４兆864億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行97兆5,960億円、償還90兆9,614億円、差引き６兆6,346億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入10兆5,000億円、償還10兆5,000億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 65,098	△ 122,335	△ 187,433
特別会計等	△ 31,562	252,161	220,599
財政投融資	21,316	25,556	46,872
社会資本整備事業	△ 3,301	10,324	7,023
外国為替資金	8,675	2,068	10,743
保険	△ 7,950	4,524	△ 3,426
その他	△ 50,301	209,689	159,388
小計	△ 96,659	129,826	33,166
国債等	164,960	△ 14,710	150,249
国債（１年超）	160,999	△ 14,992	146,007
借入金	3,960	282	4,242
国庫短期証券等	66,346	△ 115,115	△ 48,770
国庫短期証券	66,346	△ 125,967	△ 59,621
一時借入金	△ 0	10,851	10,851
合計	134,646	—	134,646
調整項目	△ 445	—	△ 445
総計	134,201	—	134,201

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第４・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 75,069	△ 89,382
特別会計の債券売・買(△)	△ 9,401	△ 26,168
財政投融資	△ 4,910	△ 31,780
国債整理基金	14,311	5,612
その他	△ 76,709	△ 39,728
計	△ 142,377	△ 155,279

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、14兆2,377億円の支払超過であって、前年同期（15兆5,279億円の支払超過）に比べ、１兆2,902億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達５兆6,458億円、資金返済13兆1,527億円、差引き７兆5,069億円の支払超過であって、前年同期（８兆9,382億円の支払超過）に比べ、１兆4,313億円支払超過額が減少した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、前年同期の２兆6,168億円の支払超過から、9,401億円の受取超過となった。財政投融資は、4,910億円の支払超過であって、前年同期（３兆1,780億円の支払超過）に比べ、２兆6,870億円支払超過額が減少した。国債整理基金は、１兆4,311億円の受取超過であって、前年同期（5,612億円の受取超過）に比べ、8,699億円受取超過額が増加した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、７兆6,709億円の支払超過であって、前年同期（３兆9,728億円の支払超過）に比べ、３兆6,980億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（13兆4,201億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（445億円の支払超過）を除いた収支は、13兆4,646億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、14兆2,377億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆2,699億円）に比べ、7,731億円減少して１兆4,968億円となった。

第明治三十二種郵便物認可　三十五年三月三十一日